



愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

2021年4月15日(木)
愛知県陶磁美術館学芸課
担当 小川、宮川
電話 0561-84-7474
愛知県県民文化局文化部文化芸術課
振興第一グループ
担当 小林、草野
内線 2459・2462
ダイヤルイン 052-954-6183



愛知県陶磁美術館テーマ展

愛知の新たな宝

—近年収蔵の重要古陶磁—

Treasures of Aichi Prefecture – Antique Ceramics
of the Aichi Prefectural Ceramic Museum Collection

会期：2021年6月26日(土)～9月26日(日)

愛知県が近年収蔵して陶磁美術館が保存している貴重な古陶磁のうち、古代猿投窯^{さなげ}*1と中世瀬戸窯*2で制作された名品を展示します。

出品作には、過去に展示公開歴がない古代猿投窯の作品や、2020年度末に収蔵後、本展が初公開となる重要な中世瀬戸窯の作品が含まれており、歴史的に貴重な愛知の古陶磁文化財を通じて、愛知の歴史文化を御紹介します。

- *1 猿投窯：名古屋市東方の東部丘陵地帯で、古墳時代から鎌倉時代にかけて操業した窯業地。
- *2 中世瀬戸窯：平安時代末期から室町時代にかけて、瀬戸市を中心に操業した窯業地。



かいゆうわらびでからくきもんでつきすいちゆう
灰釉蕨手唐草文手付水注

みどころ

- ◆猿投窯の新発見資料や、陶磁美術館収蔵後の未公開作品をお披露目。
- ◆指定文化財クラスの名陶が一室に集まる。
- ◆古代猿投窯と中世瀬戸窯の、技と美のエッセンスを鑑賞できる。

- 1 会 期** 2021年6月26日(土)から9月26日(日)まで
休館日：毎週月曜日
ただし8月9日(月・振休)は開館し、10日(火)は休館
9月20日(月・祝)は開館し、21日(火)は休館
- 2 開館時間** 2021年6月26日(土)から6月30日(水)まで
午前9時30分から午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
2021年7月1日(木)から9月26日(日)まで
午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
- 3 会 場** 愛知県陶磁美術館 本館1階 第2展示室
(瀬戸市南山口町234番地 電話：0561-84-7474(代表))
- 4 主な展示作品** **別紙1**及び**別紙2**のとおり
- 5 観覧料**
一般 400円(団体320円)、高大生 300円(団体240円) 中学生以下無料
* ()内は20名以上の団体料金
*本展は、同時開催企画展の当日観覧券でも観覧いただけます。
- 6 割引制度**
身体等に障がいのある方及び付添者(手帳提示)の割引制度があります。
詳細は県陶磁美術館の公式Webページで御確認又はお問合せください。
(https://www.pref.aichi.jp/touji/use_guidance/)
- 7 関連事業**
講座「名陶で学ぶ古代猿投窯の歴史」
日 時：9月19日(日) 午後1時30分から午後3時まで
会 場：本館地下1階講堂
講 師：おがわひろき小川裕紀(当館主任学芸員)
*聴講無料、事前申込不要、定員100名。
- 8 主 催** 愛知県陶磁美術館

9 問合せ先

愛知県陶磁美術館

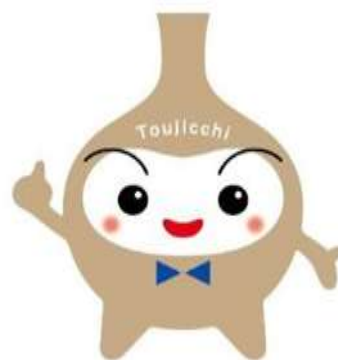
〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

電 話：0561-84-7474（代表）

ファクシミリ：0561-84-4932

メー ル：touji@pref.aichi.lg.jp

愛知が誇る古陶、古代猿投窯と中世瀬戸窯の
名品をお披露目するよ！



当館マスコットキャラクター
とうじっち

本展と同時期に、隣の第1展示室では、企画展「水滴 小さき陶芸—大島国康コレクションを中心に—」を開催します。（本日記者発表）

[主な展示作品]

第 I 部：古代猿投窯

別紙 1

何が見られる？⇒初公開の名陶をお披露目します。

主な展示作品

初公開作品



【画像 NO. 11】

かんじつきちようけいへい
環耳付長頸瓶

猿投窯 平安時代初期（8世紀末）
伝・みよし市 黒笹 36号窯跡出土
高さ 25.5cm、林きくえ氏寄贈

猿投窯の新発見資料

- ・重要文化財に指定されている多口瓶（画像 12）と、同時期に同じ窯跡より出土したという。地元の旧家で長く大切に保存されて伝わり、これまでに展覧会への出品歴や画像掲載例が認められない。2019 年度に林きくえ氏より当館へ寄贈され、本展が初公開となる。

初公開作品の参考品



【画像 NO. 12】

たこうへい
多口瓶 <重要文化財>

猿投窯 平安時代初期（8世紀末）
伝・みよし市 黒笹 36号窯跡出土
高さ 21.5cm、本多静雄氏寄贈

数少ない猿投窯の重要文化財

- ・器面に灰釉層が形成されている猿投窯製品では、本作品及び福岡市美術館所蔵短頸壺の計 2 点が重要文化財に指定されている。本作品は 1955 年 9 月に窯跡より出土したと伝えられ、本多静雄氏が所蔵していた。1993 年度に本多氏より当館へ寄贈された。

出土地判明作品



【画像 NO. 13】

かいゆうちようけいへい
灰釉長頸瓶

猿投窯 平安時代前期（9世紀）
伝・西尾市 矢作古川江原橋下遺跡出土
高さ 28.7cm

出土地情報が判明

- ・器面に灰釉が刷毛塗りされ、高温焼成によってよく熔融して黄緑色に発色している。平安期猿投窯の高い製陶技術と美を体現している。
- ・2008 年度に出土地不詳資料として購入。その後、当館内での展示を契機として、出土地に関する情報が判明したものである。

第Ⅱ部：中世瀬戸窯

何が見られる？⇒2020 年度末に屈指の名陶を収蔵後、初公開。

主な展示作品（続き）

収蔵後の初公開作品



【画像 NO. 14】

かいゆうわらび で からくきもん てつきすいちゆう
灰釉 蕨手唐草文手付水注

※詳細は別紙 2 参照

収蔵後初公開作品の参考品



【画像 NO. 15】

せいはいくじ はすからくきもん てつきすいちゆう
青白磁蓮唐草文手付水注

景德鎮窯 南宋時代（13 世紀）

出土地不詳

高さ 13.4cm

古瀬戸水注のモデル

- ・器形が本展初公開の古瀬戸水注(画像 14)に近似している。口頸部の基部に雷文、胴部に蓮唐草文を浮き彫りし、背景には櫛目文を施す。器面を分割してそれぞれ異なる文様を描く構成は古瀬戸製品と共通するが、文様の要素や技法は異なる。2012 年度購入。

収蔵後初公開作品の参考品



【画像 NO. 16】

かいゆう てつきすいちゆう
灰釉手付水注

瀬戸窯 南北朝時代（14 世紀）

出土地不詳

高さ 13.5cm

簡素な古瀬戸水注

- ・器形が本展初公開の古瀬戸水注(画像 14)に近似しているが、上部に沈線を二条巡らせるほかには文様が無い。また、画像 14 が粘土紐造り成形されているのに対し、画像 16 では轆轤成形されており、量産に適した制作技法が採用されている。1989 年度購入。

古瀬戸水注屈指の名品
かいゆうわらびで からくさもん てつきすいちゆう
「灰釉蕨手唐草文手付水注」
 を購入しました

愛知県では、2021年3月に個人からの寄附を原資として、古瀬戸水注屈指の名品である「灰釉蕨手唐草文手付水注」を購入しました。

愛知県では、愛知県陶磁資料館時代の1994年特別展「東洋陶磁名品展」での公開以来、約20年ぶりの公開であり、収蔵後としては初の公開となります。

本作品は、こせといん かもんすいちゆう古瀬戸印花文水注としては装飾性が極めて高く、類例のない名品として戦前期から知られていました。現在、古瀬戸では装飾性の高い瓶子や広口壺が国の重要文化財に指定されていますが、水注では重要文化財への指定品がありません。本作はこれらの国指定文化財に匹敵する作行きです。



かいゆうわらびで からくさもん てつきすいちゆう
 <灰釉蕨手唐草文手付水注>
 瀬戸 鎌倉時代（14世紀）
 出土地不詳
 北大路魯山人旧蔵
 高さ 19.3cm
 2020年度新収蔵作品

鎌倉時代の瀬戸焼の名品を購入しました。
 購入後初のお披露目を、お見逃し無く！



当館マスコットキャラクター
 とうじっち